

### プロジェクト研究の中間・事後評価結果について

#### 1. 評価の概要

研究期間が5年以上あり、開始から2～3年経過した3課題を対象に中間評価を、平成17年度に終了する7課題を対象に事後評価をそれぞれ実施した。

#### 2. 評価実施経過

プロジェクト研究10課題については、平成18年1～2月に外部の学識経験者等により構成される研究課題評価分科会による意見を踏まえ、3月13日開催の評価専門委員会において取りまとめを行った。

#### 3. 評価結果

本年度に中間評価を行った3課題のうち、2課題については「高く評価できる」、1課題については「妥当である」と評価される。

本年度に終了する7課題については、1課題が予想以上の成果を上げており、残り6課題についても当初の達成目標をほぼ達成したと評価される。

(具体的な評価結果(案)及びそれに対する反映方針案は別紙参照)

## 研究課題の評価結果（案）及び反映方針（案）

### 1. プロジェクト研究

#### (1) 中間評価

研究課題	評価結果		反映方針
	総括評価	評価コメント	
有用遺伝子活用のための植物（イネ）ゲノム研究 「イネ・ゲノムの重要形質関連遺伝子の機能解明」	1	<p>必要性、効率性、有効性の観点から評価した結果、本研究の事業中間年となる現在の進行状況、目標への達成度等は高く評価できる。</p> <p>今後、更に実用化を視野に入れながら、農業上有用な形質に絞って有用遺伝子の機能解明が達成できるよう、研究の推進を図るべきである。</p>	<p>本研究課題を継続する。</p> <p>また、今後、課題の重点化を行い、実用化を視野に入れた研究の推進を図る。</p>
有用遺伝子活用のための植物（イネ）ゲノム研究 「イネ・ゲノムリソースセンターの整備」	1	<p>必要性、効率性、有効性の観点から評価した結果、本研究の事業中間年となる現在の進行状況、目標への達成度等は高く評価できる。</p> <p>なお、他の植物ゲノム研究（グリーンテクノ計画）において、ゲノムリソースが作成されつつあることから、これらの研究と十分に連携をとりながら研究を推進する必要がある。</p>	<p>本研究課題を継続する。</p> <p>また、グリーンテクノ計画プロジェクトと連携を図り、作成されつつある様々なゲノムリソースについての配布体制の整備や文部科学省のナショナルバイオリソースプロジェクト等との連携も視野に入れて研究を推進する。</p>
生物機能を活用した環境負荷低減技術の開発	2	<p>必要性、効率性、有効性の観点から評価した結果、本研究の事業中間年における、研究の進捗状況等は妥当であると判断される。</p> <p>ただし、研究後半期においては、研究資源を効率的に活用し、研究目標を達成するため、研究課題の重点化を図る等の研究計画の見直しを検討する必要がある。</p>	<p>本研究課題を継続する。</p> <p>なお、今後、現場実証型の課題に重点化して推進する。</p>

総括評価の基準： 1. 高く評価できる。 2. 妥当である。 3. 見直しが必要である。 4. 中止すべき。

(2) 事後評価

研究課題	評価結果		反映方針
	総括評価	評価コメント	
新鮮でおいしい「ブランド・ニッポン」農産物供給のための総合研究	2	<p>必要性、効率性、有効性の観点から評価した結果、本研究課題は、「当初の目的をほぼ達成した」と判断される。</p> <p>機能性の高い品種、軽労化に適した品種等が多く育成されたことは、研究成果として評価される。今後、これらの成果が多くの実需者に活用されるためには、実用化、普及定着に向けた体制の充実が必要である。</p>	<p>本研究の成果は次期プロジェクト「低コストで質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術の開発」及び「粗飼料多給による日本型家畜飼養技術の開発」等で活用することとし、食料自給率目標達成等に向けた研究開発の展開を図る。</p> <p>また、本研究の育成品種を生産者・実需者等に広く知ってもらうためにパンフレット、ホームページ等で品種特性、栽培特性を公表し、普及定着に努める。</p>
遺伝子組換え生物の産業利用における安全性確保総合研究	2	<p>必要性、効率性、有効性の観点から評価した結果、本研究課題は、「当初の目的をほぼ達成した」と判断される。</p> <p>本研究は、科学的根拠に基づく基礎データの集積、技術の開発を行う緊急性の高い研究であり、短期間で一定の成果を上げたことは評価できる。</p> <p>なお、得られた知見が国民に正しく理解されるよう、情報発信に配慮することも必要である。</p>	<p>本研究の成果はカルタヘナ法に基づく生物多様性影響評価や組換え作物の検出等において活用を図ると共に、次期プロジェクト「遺伝子組換え等先端技術安全性確保対策」では、新たに開発が見込まれる組換え作物の評価手法の開発や非組換え作物との共存など新たに生じてきた課題等にも取り組む。</p> <p>本研究の成果が国民に正しく理解されるよう、分かりやすく取りまとめ、ホームページなどを活用した情報発信に取り組む。</p>
体細胞クローン動物安定生産技術の確立研究	2	<p>必要性、効率性、有効性の観点から評価した結果、本研究課題は、「当初の目的をほぼ達成した」と判断される。</p> <p>なお、体細胞クローンに対する国民の理解を深めるため、一般向けの説明資料も必要である。</p>	<p>本研究の成果等をもとに、体細胞クローン技術を説明する資料（パンフレット）を作成し、情報の提供に努める。</p>
野生鳥獣による農林業被害軽減のための農林生態系管理技術の開発	1	<p>必要性、効率性、有効性の観点から評価した結果、本研究課題は、「予想以上の成果を上げた」と判断される。</p> <p>なお、今後解決すべき課題も明らかになったことから、後継の研究に積極的に取り組むことが重要である。</p>	<p>今後は、競争的研究資金等により、長期的に農林被害を軽減する管理技術の確立に向け、野生動物が生息する環境の適性評価に基づき農林被害の危険度を予測する手法等の開発を推進する。</p>

研究課題	評価結果		反映方針
	総括評価	評価コメント	
地球温暖化が農林水産業に与える影響の評価及び対策技術の開発	2	<p>必要性、効率性、有効性の観点から評価した結果、本研究課題は、「当初の目的をほぼ達成した」と判断される。</p> <p>なお、研究成果は自治体や農林業関連団体等において利用可能となるように、ホームページ等を利用した積極的な公開や広報が必要である。</p>	<p>本研究の成果は次期プロジェクト「地球温暖化が農林水産業に及ぼす影響の評価と高度対策技術の開発」等で活用することとし、農林水産生態系の炭素循環の解明とモデルの開発等への応用展開を図る。</p> <p>また、本研究の研究成果が自治体や農林業関連団体等において利用可能となるように、ホームページ等を利用した積極的な公開や広報に取り組む。</p>
農林水産研究情報デジタルコミュニティの構築のうちデータベース・モデル協調システムの開発	2	<p>必要性、効率性、有効性の観点から評価した結果、本研究課題は、「当初の目的をほぼ達成した」と判断される。</p> <p>なお、研究成果は、農林水産業の情報システム化の革新に大きく貢献するものであり、今後、成果の普及のためには、行政と研究の連携が必要である。</p>	<p>本研究の成果が「IT活用型営農成果重視事業」（生産局）等の行政部局の事業における技術ツールとして活用されるよう連携を図っていく。</p>
食品の安全性及び機能性に関する総合研究	2	<p>必要性、効率性、有効性の観点から評価した結果、本研究課題は、「当初の目的をほぼ達成した」と判断される。</p> <p>なお、本研究の優れた成果は、広く国民に理解されるよう公表することが必要である。</p>	<p>本研究の成果は次期プロジェクト「安全で信頼性、機能性が高い食品・農産物供給のための評価・関知技術の開発」等で活用することとし、食品の安全性を確保する技術等への応用展開を図る。</p> <p>また、本研究の成果について、広く国民に理解されるよう公開シンポジウムの開催やホームページによる広報を積極的に行うこととする。</p>

総括評価の基準： 1. 予想以上の成果を上げた。 2. 当初の目的をほぼ達成した。 3. 目的の達成は不十分であった。